

細江カトリック教会だより

9月号

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

不都合な現実の中で

今年も熱帯に近づいたような暑さに見舞われた夏も峠を越し、ようやく虫の声に秋を感じるころとなりました。若者にとっても厳しい夏でしたが、高齢者の方々には、さぞ大変な日々だったことと思います。どこかで避暑でもと願いながら適わず、比較的恵まれた下関の地で、しばし静かな時をもつことができました。翻って今年の前半を振り返ってみると、降って湧いたような怪我と入院で、現場からの離脱を余儀なくされ、教会の皆さまには、大変なご迷惑をおかけしました。

体に不自由を負うことで、今まで考えもしなかった人間存在のもろさ、頼りなさを実感するとともに、多くの方々の助けや協力、やさしさや思いやりを経験し、あらためて健康のありがたさを味わうことになりました。まだ、完全復帰にはほど遠い状況ですが、少しずつ本来の活動に従事できることを感謝しております。

6月から始めた聖書を学ぶ勉強会を通して、ミサの中で歌う詩編等、旧約時代の人々の信仰に触れることができたのは、大きな慰めでした。「詩編」は「賛美」(テヒリム)という言葉から来ることはよく知られていますが、150ある詩編の中で、最も多いのが、個人の苦しみ、民族としての悲惨を訴える「嘆き

の詩編」であることはどれだけ認識しているのでしょうか。健康のとき、すべてが順調に進んでいるときには、あまり心惹かれることもない嘆きの歌も、苦しみや痛みを抱えた状態の中で読み直してみると、新たな光と慰めを与えられるものです。そして、嘆きの歌が、いつの間にか、賛美の言葉に移行していることも大きな発見です。主イエスご自身が十字架上で叫ばれた「わたしの神、わたしの神、どうしてわたしを見捨てられるのか」という言葉で始まる詩編第22編も、後半、美しい神への賛美の言葉に溢れていることも驚きです。

聖書の民は、どんな辛い状況の中でも、すべてを治め導かれる神に思いを向けることを忘れなかったのです。

わたしたちひとりひとりの人生、家族や社会、そして、その中に置かれた教会自体の現実も、決して、手放しで喜べるものばかりではありません。思い通りにならない現実、一歩進めばまた壁にぶつかる、そんな歩みの連続かもしれませんが、そうした状況のなかでも、唯一変わることはないお方に目を向け、小さな存在に心を留めてくださる方が、いつもともに歩いてくださることを確信し、希望をもって信仰の旅を続けてまいりましょう。

作道 宗三 神父



地区便り V

市民フォーラム 7/6(土)

後田地区

私には他宗教の友達がありました。その子に私はカトリックの勉強をしていると伝えていて、お互いの宗教観にも理解を持っていました。

その子と遊ぶうちにお参りにも一緒に行くようになり、その後うちの信徒にならないか?とお誘いを受けるようになりました。その時にその宗教の方から「まだ宗教を決めていないのなら、うちでお試しすればいい」と言われたのです。

私にとって神様とは、疑う余地のない完璧な存在であり、自分の生涯を通して信じられる方だと思っています。それをお試しするなど考えられず、その場で断りました。少し気まぎらくなったのですが、その後友人に、「自分の宗教にちゃんとした想いや考えを持っていて羨ましい」と言われたのです。その子は親が信徒だから自分も信徒なのは当然であり、幸福であると言っていました。ですがその宗教では薬は悪い物であるとされていた為、月のものの痛みや体調を崩しても薬を飲まずに耐えていました。それを思い出す度に宗教的幸福とは何か、と終わり無く考えてしまいます。

カトリックの考えを広めるのは使命である、とありますが未だにその子に何と言えれば良かったのか、私はわからないままです。今はあの子に少しでも幸福がありますようにと祈るばかりです。

マリア・フランシスカ



14:00～教会ホールで下関市民フォーラムが開催された。山口、宇部、周防大島、北九州など、近隣市民を含む約70名が「外国人労働者の抱える問題と現状」について聴き、対話し、自分たちの問題として掘り下げていった。

外国人技能実習生権利ネットワーク北九州の木村真さんの話と、闘っている実習生4人の慣れない日本語ながら真摯な気持ちを聞くことができた。

外国人技能実習制度に基づく実習状況は、出稼ぎ実習生の権利が守られるどころか、制度が悪用されて差別されている。彼らを保護し連帯して、雇用者側へ抗議の申し入れをする。また、この問題を私たち日本人の問題として、よりよい未来社会実現のために、エネルギーに行動されている姿に感銘を受けた。

教会にも多くの外国籍の方がこられる時代になった。キリストに結ばれた同じ信仰の仲間として、共生していく教会となるように心を開いて、交わりを持ちたいと。

菊野 清一

*大事な原稿をいただいていたのに、前号では紙面の関係で掲載できませんでしたので、今回の教会便りに載せさせていただきました。

上智大学 STP の開催 8/5



今年もまた上智大学 STP が 8 月 5 日～7 日に開催されました。この猛暑の中、33 名の受講生（高校生 2 名、中学生 7 名、小学生 24 名）が頑張っていました。昨年は 22 名の受講生で少し淋しかったのですが、今年は 11 名も増えて、汗を流しながらの授業風景でした。細井チープ（3 年生愛知出身）を中心に 20 名のスタッフの皆様も気合が入りました。その熱意に受講生の皆様により深く語学に感心をもてたらと祈らざるを得ませんでした。少子化等 STP を取り巻く環境は年々むつかしくなっていますが、これからもずっと続くこと、願っています。

「平和のために祈る」集い 8/4

（日）18時 ザビエル上陸記念碑前



今年も、祈りの集いを、信者・市民・プロテスタントの皆さま、海の星幼稚園児をはじめとした子どもたち、さらには韓国から神父様 2 名・教会関係者 2 名の参加もあり、合わせて 140 名近くで開催しました。猛暑の中ご参加された皆さま、ありがとうございます

た。

韓国から来られた神父様たちのことばを紹介いたします。

* 韓国で典礼は、厳粛で重い感じですが。しかし聖ハビエル記念典礼は何か愛らしい感じ、市民らと一緒にする感じでした。

平和のメッセージは、とても驚くべき強いメッセージでした。日本のカトリック教会は預言者的な召命（呼びかけ）によく応えていると思います。良い学習の時間でした。

キム・ミン神父

* とても暑い日、何百年前、聖フランシスコ・ハビエルは見慣れない土地に着いた。その場で開かれた祈りの集い、いろいろな教会の信者らとこどもたち、他の教派の牧師様と信者も一緒にした平和のための企画（祈祷）が、非常に印象的でした。その日、まだよく知らない場所を訪れた誰も知らない旅人だった私が、平和のための企画（祈祷）の中に一つになることを感じる事ができました。韓国に戻っても、8 月初旬になればとても蒸し暑い海辺で汗をふいて歌って祈ったすべての方を思い出して、ともに世界平和を祈ります。

チョン・ダビン・メラニア

合同慰霊祭 8/10（土）

・ ・ 私の慰霊祭 ・ ・

イエス、あなたは言った。

「父の家には住むところがたくさんある。あなたの方のために場所を用意しに行く。場所を用意したら戻って来て、あなた方をわたしの元に迎える」と。

イエス、あなたは言った。

「わたしが先に行くのは、あなた達のためになるんだよ」と。

イエス、あなたは言った。

「みなしごにはしておかないよ。弁護士・聖霊を送るよ」と。

イエス、あなたは言った。

「わたしの元に帰ると、あなた方はもっと大きなものに包まれる」と。

信仰と共に、今生の別れさえも、前向きに受け入れ、肯定することと学ぶイエスの言葉。

慰霊祭は、まさしく、帰天した人々のその「生」と「死」に、私たちの霊が包まれ、私たちの霊が励まされ慰められる祭り。そんな気がしています。

間地 のり子

「愛の広場」出店 8/24 (土)

この日の昼過ぎから各教会の老若男女が入り混じって、天候を気にしながら準備をしました。出店は例年のごとくですが、今年はサビエル高校の生徒3名の女子、ベトナムの青年も参加し平均年齢がずいぶんと下がったようです。

我が細江焼き鳥チームは早々と完売(18時過ぎ)していたので、売り上げに貢献しようとせっかく来てくださった信徒の方々には申し訳ない思いでした。

売上金は愛の献金として全額寄付をします。大変だけど少しでも誰かの役に立つことができ嬉しい疲れです。

お手伝いの皆さま！ありがとうございました。

*ずーっと、
ベトナムの若者たちが
頑張ってくれました。



お知らせ

社会教説学習会

9/8 (日) 9:00

～ 傷ついた地球を癒すために・・・

「ラウダート・シ」の

呼びかけへの応答 ～

講師：中井淳神父

最終誓願式 7/31 (水)

「主よ、わたしの自由をあなたにささげます。」

東京イグナチオ教会において柴田神父さまと中井神父さまの最終誓願式が行われました。



* 交流会で
「にもかかわらず・・・」
と、お話された中井神父
さまの言葉が心に残る。

* 百瀬神父、
酒井神父さま、
トアンさんと
嬉しい再会。

